

第14回加東伝の助マラソン大会 1月19日 播磨中央公園



年に一度、市内外の約1800人のランナーが集う「加東伝の助マラソン大会」を、今年も開催しました。当日は、冷たい風が吹くなか、3歳〜82歳のランナーたちが、熱い風となり、会場である播磨中央公園内を駆け抜けました。

同大会では、3歳〜5歳の児童が、親子で1き走に挑戦する「親子ペアジョギング」をはじめ、年齢、性別、距離に分かれた様々な部門が催され、コースの沿道やゴール地点は、ランナーを応援するたくさんの方々に溢れました。

親子ペアジョギングに参加された宮下直人さん・理菜さん（西脇市）は、「練習のときは、（理菜さんが）途中の坂道で止まってしまっていたけれど、本番では最後まで走り抜いてくれて、嬉しかったです。」と、またお子さんの理菜さん（6歳）は、「楽しかったですよ。」と笑顔で話してくれました。



大きな歓声が沸き起こるなか、次々にゴールしていききました。



「頑張ったね」と声をかけられながら、表彰状を披露していました。



勢い良く飛び出す親子ペアジョギングのスタートの様子。笑顔でスタートした親子の表情は、ゴール地点では達成感に溢れた表情に変わっていました。



第9回あったか加東伝の助かるた大会・第14回新春書き初め大会

滝野総合公園体育館「スカイピア」で、1月5日の午前中に、「あったか加東伝の助かるた大会」を開催、午後には、「新春書き初め大会」が開催されました。

「あったか加東伝の助かるた大会」では、約180人の児童が参加し、熱い戦いが繰り広げられました。



「き」の札をとったという新中龍人さん（東条西小1年）は、「大会に向けて、家で家族と練習しました。かるたをとるのは、楽しかったです。」と話してくれました。

「新春書き初め大会」では、午前中の熱い雰囲気とは打って変わって、会場は、緊迫感に包まれました。参加した児童、生徒たちは、新しい一年の抱負や思いを乗せて、筆を運びました。

東京2020オリンピック聖火リレー

触って感じる オリンピック



令和元年12月27日、ホテルグリーンプラザ東条湖で、東京2020オリンピックで使用される聖火リレートーチの実物が展示されました。

これは、同オリンピックのスポンサーであるコカ・コーラボトラーズジャパン株式会社によるイベントで、ホテルのロビーには、今回のトーチだけでなく、過去に開催されたリオデジャネイロオリンピックと平昌冬季オリンピックで使用されたトーチも展示。訪れた方々は、東京大会のトーチを実際に手に持って、重さを感じてみたり、記念撮影をしたりと、一足早くオリンピック気分を味わいました。

聖火リレートーチがランナーの手に握られ、再び加東市を訪れるのは、5月24日（日）。オリンピックの機運を熱く盛り上げてくれることでしょう。